



島根大学広報誌 広報しまだい

# Shimadai

2013.7 vol.17



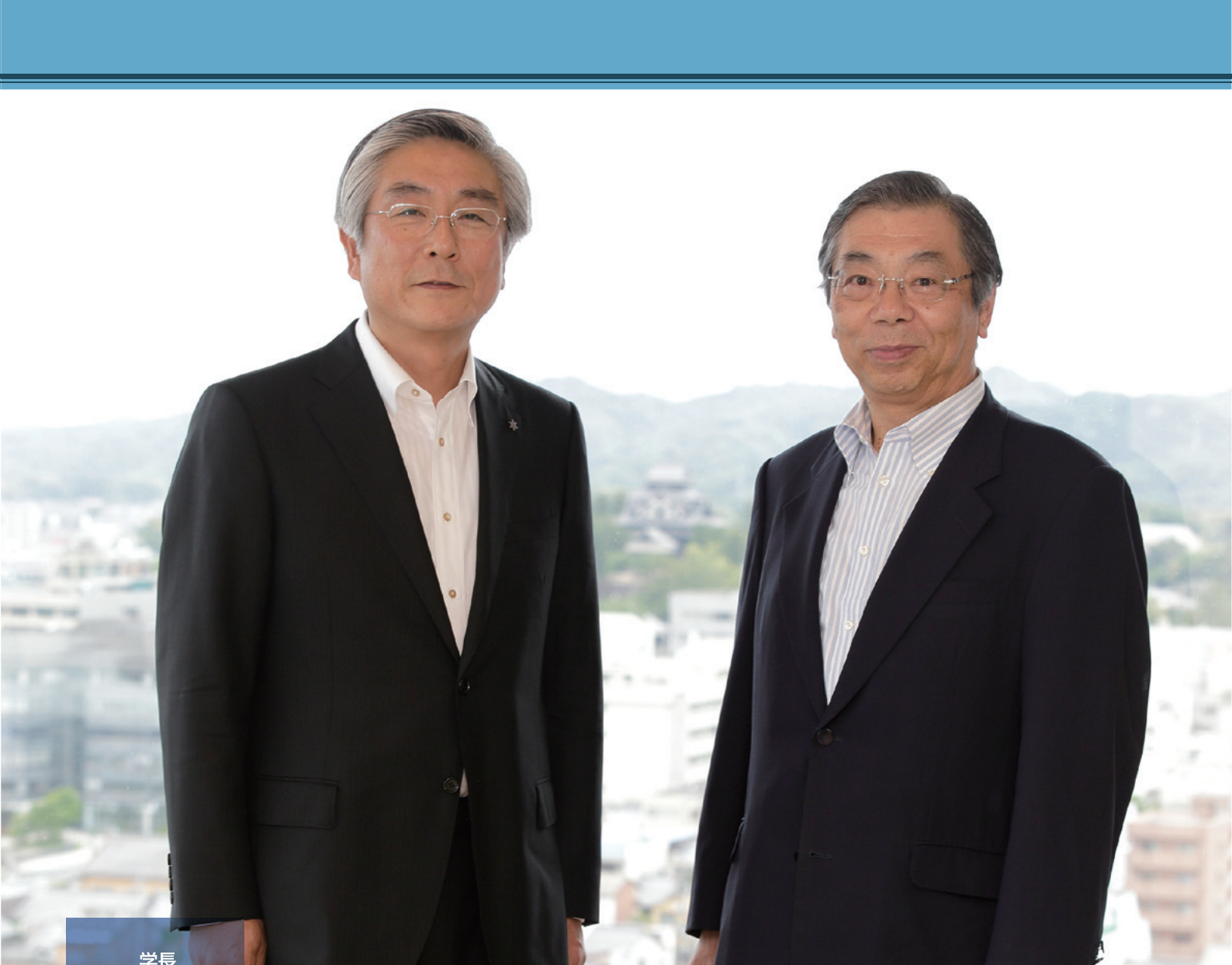
## 山陰の「活力」を 育てたい。

【学長スペシャル対談】 山陰合同銀行 常務執行役員

山本陽一郎さん

特集I ■めざすは「島根から世界への発信」  
島大発、ベンチャー企業  
いよいよ飛躍!

特集II ■附属図書館本館リニューアル  
現代的に大きく変わった  
「知の拠点」



学長  
スペシャル対談

山陰合同銀行 常務執行役員 島根大学農学部卒業

島根大学 学長

# 山本陽一郎さん×小林祥泰

YAMAMOTO YOICHIRO

KOBAYASHI SHOTAI

山本陽一郎さん(左)／1957年生まれ、鳥取県八頭郡若桜町出身。79年、島根大学農学部卒業後、山陰合同銀行入行。01年融資部部長代理、04年融資部次長を経て、同年鳥取駅前支店長に就任。07年に加古川支店長を務めた後、10年取締役就任(CR統括部長委嘱)。その後は11年執行役員(CR統括部長委嘱)を経て、13年4月より常務執行役員に就任。

- 島根大学の研究・地域貢献事業紹介
- ①教育学部 原 広治教授 ..... 13
- ②総合理工学部 笹井 亮准教授 ..... 15
- ③生物資源科学部 西川 彰男准教授 ..... 17

- しまだイトピックス ..... 19  
熱中・夢中！島大・新入生の声／海を越えた島大生
- サークル紹介 ..... 21  
卓球部／医学部「キンダーフロイント」
- 島根スサノオマジック紹介・  
島根大学支援基金寄附者一覧・プレゼント ..... 22



# 山陰の「活力」を育てたい。

ゲストは、今年4月に山陰合同銀行常務執行役員に就任された山本陽一郎さん。  
地域の産業活性化に携わる山本さんと、地域が求める人材の輩出をめざす小林学長が、  
「企業や大学に何ができるか」を熱く語り合う貴重な対談となりました。

人とのつながりの中で自分を成長させ、地域を活性化させる。  
それが銀行の仕事の醍醐味であり、大学の使命です。

**学長** 山本さんは本学の農学部出身ですね。農学部から金融業界に入られたきっかけは？  
**山本** 私の在学中は、農学部の学生でも法学科の授業に自由に参加できました。だから私は、

経済や民法の授業に積極的に参加していました。マルクス経済や近代経済などに興味を持ったのもこの頃で、「銀行で働くのも良さそうだな」と思うきっかけになりました。当時の金融業界は、法

学・経済・商学部の学生にしか就職のチャンスがなかったのですが、山陰合同銀行だけは、島大生に限って、農学部出身でも門戸を開いてくれていたんですよ。

**学長** 銀行の中でも、特に地方銀行は、地域の人々の暮らしを支え、産業の活性化に貢献できる、非常にやりがいのある素晴らしい仕事だと思います。ただ、学生たちには、銀行の仕事の醍醐味が分かりにくいようです。

**山本** 私も実際に働き始めてから「銀行つておもしろいところだな」と改めて実感しましたね。これだけ幅広い職種・世代の人と話ができる仕事はそうはないはず。お会いする人ごとに、得るものが必ずあります。



2013.7 vol.17  
**Shimadai**

島根大学広報誌  
広報しまだい

■学長スペシャル対談

島根大学農学部卒業  
山陰合同銀行 常務執行役員

山本陽一郎さん ……1

■めざすは「島根から世界への発信」

島大発、ベンチャー企業いよいよ飛躍！…5

■附属図書館本館リニューアル

現代的に大きく変わった「知の拠点」…9

# 大学は、地域の「知の拠点」。 地域が求める人材を輩出していきたい。

**山本** 銀行というところは、人と人とのつながりの中で、お金というものを媒介に商売をさせていただいています。そこには当然、責任も伴いますが、非常にやりがいもある。お給料をいただきながら自分を向上させることができる、貴重な職種です。

**学長** お金を動かし、活用する

という点では、例えば二、三人で立ち上げた小さなベンチャー企業に融資をして、その企業が大きく成長すれば、互いにWin-Winの関係になれる。そういう意味で、特に地方銀行は、地域の産業活性化に貢献でき、本当に素晴らしいですね。

**山本** 少子高齢化で人口が減少



となりました。

していく中、山陰合同銀行では一定の仮説を立てて、今後の人口動向をシミュレーションしています。なぜなら地域が活性化しないと、銀行も成り立っていかないからです。地域のお役に立てるように、今から少しでも早く行動を起こさなければ、という強い使命感がありますね。

**学長** それは大学も一緒です。

地方に魅力がなければ、若い人がどんどん減っていく、大学自体の存続ができなくなる。だからこそ「産官学+金」が一緒になって人材を育成すれば、そこから新たな事業が生まれるなど、地域の産業全体に広がりが出てくるのではないのでしょうか。幸いにも、山陰合同銀行と本学は、連携協定を締結しています。今後は共に地域の産業や文化の振興等に貢献していきたいですね。

**山本** そのためには、私も銀行側から「何かこんなことができなだろうか」という問いかけをしていかなくはいけません。大学からも「こんなことができる、あんなこともできる」という提案があるといいですね。地域社会の

中で存続し続けるためには、これからの大学には「魅力的な特徴」が必要になってくるのではないのでしょうか。

**学長** そうですね。島根県には「古代出雲文化」という他県に勝る素晴らしい財産を持っているのだから、積極的に活用すべきだと思います。その一例として、この春、出雲地域を歴史的・文化的に探求する「出雲文化学」という授業を始めました。これは本学にしかできないと自負しています。同じ島根観光をするにしても、例えば「神話」について事前に知っているかどうかで、「因幡の白兔」の意味合いも随分と変わってくると思うんです。

**山本** 私は転勤で色々なところで生活しましたが、島根は本当に素晴らしいところです。自然もあるし、歴史もあるし、食べ物もおいしい。そして何より、文化度が高い。だからもつと魅力ある街づくりができるのではないのでしょうか。なのに、実際に暮らしている私たち自身が、意外とそのことに気付いていない。我々自身が文化を守り、創っていくことが大





山陰合同銀行の応接室にて、松江市街を望みながら和やかな対談

## 企業のニーズに、いかに応えられるか。そこが地域における存在価値になる。

切だと実感しています。

**学長** 本学は総合大学なので、その良さを地域活性化にうまく活かせたらと思っています。例えば、ある学部で「ある食物の特定の栄養分がとても高い」と判明した時、それを健康食品に改良するまでなら、他大学にもできる。でも本学には医学部があるので、それを患者さんに役立てることが出来る。このような活動を積極的に進めたいと考えています。

**山本** 企業のニーズも実にさまざまで、兵庫にいたとき「エジプ

トに土地を買って、農業を始めたい」という大企業のお客さまがいました。いわゆる六次産業化ですが、そういう時「どんな野菜が適しているか」「どんな流通経路があるか」など、幅広い情報が必要となります。そういう企業に向けて、島根大学にできることを発信することも大事ですよ。結局は「現場で何が起きている、自分たちには何ができるのか」ということだと思えます。現場の情報収集の中でこそ、新しい提案が生まれるんですね。

**学長** いま「ソーシヤルラーニング」が流行っていますが、わたしは現場主義なので、現場に行ってみないと分からないことが多いと感じます。大学の研究が実用化されないのは、そこに原因があると思います。だから学生には、一、二年生の時からどんどん外に出てもらい、様々な人に出会い、世間にはいろいろな問題があることを知ってほしいですね。そうすれば将来、何を求められているか肌で分かると思うんです。

**山本** まさにそうだと思います。大学の持っている高度な技術を、実際の商品やサービスへと実用化するには、やはり民間企業との連携が欠かせないと思います。

**学長** 本学が地域の知の拠点と

なるためには、どういう人材が求められているかを知り、育てるべきですね。また、島根の歴史と文化を、貴重な資源としてプレゼンできれば、大学としてすごい能力になるのではないかと。

**山本** いろんなアイデアを実現化する一方で、リスクをどれだけ低くするか。それが起業家支援であり、そのためには行政・企業・大学など、地域ぐるみの支援が欠かせません。そういう活動を一つひとつ丁寧に進めていくことで、10年後、20年後に花開く、ということではないでしょうか。

**学長** 共に地域の活力を高められるよう頑張りましょう。本日はありがとうございます。



小林祥泰 / 1946年生まれ、出雲市出身。慶應義塾大学医学部卒業後、島根医科大学医学部教授、島根大学医学部附属病院長などを経て、2012年4月より島根大学長に就任。専門は神経内科学。

めざすは「島根から世界への発信」。

# 島大発、ベンチャー企業いよいよ飛躍！

今年4月、島根大学から二つのベンチャー企業が誕生しました。

その名も「株式会社パワエレアカデミー」。島根大学総合理工学研究科のパワーエレクトロニクス研究室を母体とし、学生と起業家の両立にチャレンジする服部さんと今岡さんに、起業までのエピソードや今後の目標などについて伺いました。

## 「セミナー業をメインに、事業を展開。」

今回「株式会社パワエレアカデミー」を起業したのは、総合理工学研究科博士後期課程1年の

服部文哉さん(社長)と今岡淳さん(技術担当)のお二人。今春、テクノアークしまね内にオフィス



「セミナー業は、人をつないで知材を得ることができるのが魅力」と今岡さん。

を構え、活動を開始しました。

事業内容の核となるのが、全国ベンチャー企業でも珍しい「専門技術のセミナー業」。パワーエレクトロニクス専門の講師をお招きして、様々な分野に関して講演していただくというものです。

「そもそも電気というのは非常に分野が幅広く、例えば『高周波』『熱』『磁気』など多岐にわたります。それぞれの分野のエキスパートはいても、自分の専門外になると、途端に分からなくなる。だからセミナー業を通して、専門分野同士をつなげるお手伝いができたら、と考えたんです(服部さん)。母体であるパワーエレクトロニクス研究室(以下「パワエレ研究室」と表記)の山本真義准教授ほか、今岡さん自身も講師を務める予定です。



(株)パワエレアカデミーのオフィスにて。新たなビジネスプランに夢がふくらみます。

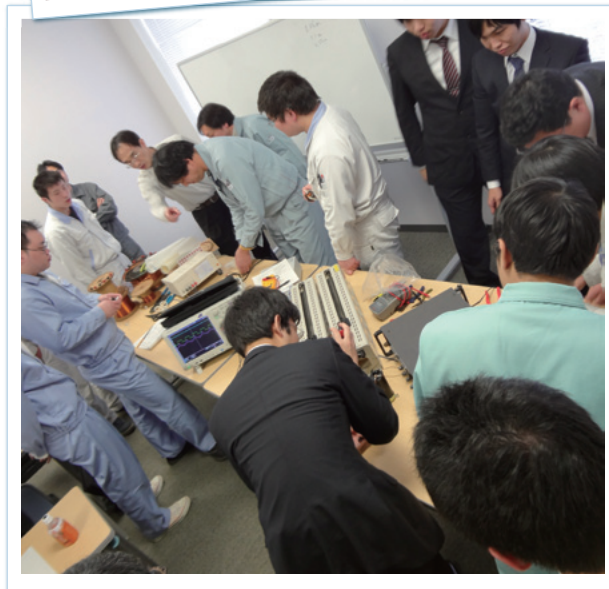
また、産学連携による企業向けの「パワーエレクトロニクス教育事業」も行います。前述のセミナー業が「企業間のマッチング」であれば、こちらは「企業と大学の架け橋」的な役割を担うものです。「産学連携で大手企業と提携し、中小企業にパワーエレクトロニクスの基礎技術を指導します。実機講習を取り入れ、ノウハウを修得していただく予定です(服部さん)。将来的には一般の方や高校生向けに、電気や工学に親しんでいたためためのセミナーの開催も視野に入れています。

その他にも、高性能で低価格な日本未発売のシミュレータの輸入販売や、電力変換器の高電密度化等の受託開発も行います。





「大企業に就職するより、自分で島根の未来を切り開いていきたい」と服部さん。



「セミナー業」をメインに、産業界と学术界の融合を図るのが目標。

## 産業界と学术界を近づけて、 島根から日本の産業を活性化したい。

今回の起業の陰には、お二人の島根への強い想いがありました。「実際に企業で講義をした時、ものを作る製造メーカーと、学校での学びがあまりにもかけ離れてい

てびつくりした」と語ります。「セミナー業を事業の中心に据えたのは、学術的なことと産業の部分の架け橋になれたら、という思いから。そうすれば、島根から日本

全体の産業をより活性化できると思うんです」(服部さん)。セミナーの運営を通して、自分自身の知見を広めることができるうえ、人脈が広がることで、さらに新しい仕事の受注も期待されます。また、シミュレータの輸入販売も、売上利益は二の次で「安くて良質なものを使ってもらうことで、日本の技術力の底上げを図ること

## ベンチャー起業の影に、 パワーエレクトロニクス研究室」あり。

ところで、お二人が属する「パワーエレクトロニクス研究室」ではどんな取り組みが行われているのでしょうか。

パワーエレクトロニクス研究室では、地元企業との共同研究が連日行われています。



さらには、国際会議への出席など、学生たちが世界の先端に触れる機会を用意しています。

が目標(今岡さん)と語ります。新興国に押され気味の、日本の産業界。地方工場の閉鎖は、若者の流出につながります。だからこそ「島根から発信し、地元に戻元する」ことに意義があるのです。今後新たに1名のメンバーを加え、ますます精力的な(株)パワーエレクトロニクス」の活動に注目です。



## 電気自動車、車載用バッテリーなど 全国的にも最先端を研究。

パワエレ研究室の取り組みの一つに「電気自動車」があります。すでに研究室で自作した電気自動車を、島根大学公用車として登録済みですが、この度、島根の自動車修理販売会社(株)アクティブや県産業技術センター等と一緒に、新たな電気自動車の共同開発に取り組みました。

レトロタイプのユニークな外観が魅力の電気自動車は、リチウムイオン電池を使用しており、約4時間の充電で約50kmもの距離



レトロタイプの電気自動車は、主に観光地での利用が予定されています。

を走行可能です。

この他にも、電気自動車やプラグインハイブリッドカーの走行性能や車内スペースの確保の観点から、(株)P A Tと世界最小の「車載用バッテリー充電器」を共同開発するなど、常に最先端の技術開発に携わっています。

「地元・島根の地で世界に通じる研究をしながら、収入も得られるモデルづくりを」という山本准教授の熱意とアイデアが、学生たちに刺激を与え、ベンチャー企業の立ち上げに影響を与えているのは間違いないさそうです。



自作の電気自動車は、技術力のよいアピールに。

## 奥出雲で田植え体験！ 根性と英気を養い、新たなパワーの源に。

山に囲まれた豊かな自然と、昔ながらの暮らしが息づく、出雲神話のふるさと・奥出雲。5月19日、稲田神社近くの田んぼで、パワエレ研究室のメンバーを中心とした学生16名が田植え体験を行いました。

### 最先端を学ぶ学生たちが、泥にまみれて大奮闘！

(株)パワエレアカデミー同様、ベンチャー企業の社長である岡田篤志さんの所有する田んぼをお借りしての田植え体験は、今回二度目。岡田さんと山本准教授は親交があり、日頃、机の上で文字ばかり追っている学生たちに、気分転換を図ってもらおうほか、「農業体験を通して起業に必要な辛抱強さや粘り強さも身につけてもらえたら」との思いも込めて始めたのがきっかけでした。当日はあいにくの雨模様でし



たが、学生たちは慣れない手つきながらもどんどん苗を植え進めていきます。およそ1時間半で水田一面に青々とした苗が並びました。

参加した学生たちは「初めての体験で腰が少し痛くなったけど、とても楽しかった」「勉強や研究に追われる毎日ですが、自然の中で自分を切り替えられる貴重な体験になりました」等の声が聞かれ、みんな心地よい疲労感と達成感に大満足の様子でした。



## 「めざすは、地域を巻き込んだの活性化。」 「限界集落の再生」にも注力していきたい。

総合理工学研究科  
山本真義 准教授



今回の学生たちの起業は、まだやっとスタートラインに立った段階で、「ここからどう発展させていくかが重要になってきます。

いくら電気に関する高度な技術を持っていても、地元の方と乖離しては意味がない。いかに両者をつなぎながら大きな流れを作っていくかが、これからの課題と言えるでしょう。

その解決策のヒントの一つに、奥出雲での田植え体験があるのかもしれない。田植えを単に「地元の人との交流」で終わらせるのではなく、もう一歩踏み込んで「田舎の活性化」につなげた

い。例えば奥出雲では特殊な農法をやっていらつしやるので、それに合わせた田植機の開発はできないか、あるいは田植機の燃料をお年寄りがガソリンスタンドまで買いに行かなくてもいいように、電気で賄えないか。そのような課題を突き詰めていけば「限界集落の再生」に貢献できないか、という所まで結びつくのではないだろうか。

「ハイテク」と聞くと、遠いものに感じますが、実はすごく身近なもの。電気はインフラで、表立って出てくるものではありませんが、人々の暮らしを裏で支えるものです。だからこそ、技術を一方的に押し付けるのではなく、あくまで地域が活性化するための基盤を創っていくことが、私たちパワエレ研究室と(株)パワエレアカデミーに課せられた、今後の大きな課題といえそうです。

## タンパ大学の学生たちと 国際交流も。



そして午後からは、奥出雲町にホームステイに来ていたアメリカ・タンパ大学の学生たちと一緒に芋の苗植えを体験しました。  
最初はなかなか話が弾まなかった学生たちですが、身振り手振りで苗の植え方を教えたりするうちに、少しずつ打ち解けてきた様子。苗植えの後の交流会では、日本の花札やトランプ遊びで和やかな時間を過ごしました。

## 外に目を向け、積極的な交流を。

岡田篤志さん  
(株式会社 美田 代表取締役)



元奥出雲町商工会 事務局長の経歴を持つ。2011年秋、奥出雲で農業に携わりながら、稲田神社境内に、地元産の食材にこだわった「姫のそば ゆかり庵」をオープン。

ベンチャー企業を成功させるためには、いろんな人に会い、情報をいただき、いざという時サポートしてもらえるネットワークを作ることが必要だと思います。そして何より、挑戦し続けることが大切です。(株)パワエレアカデミーとは、やっている事業は違えど、「島根の活性化のため」という目的は同じ。同じ起業家として、今後もしも良い交流ができればと思います。

特集Ⅱ

# 附属図書館本館 リニューアル 現代的に大きく変わった「知の拠点」

地域の方々も  
ご利用できます！



【開館時間】 授業期間/月曜～金曜 ● 8:30～21:30 休業期間/月曜～金曜 ● 9:00～17:00  
土・日曜、休日 ● 10:00～17:30 土・日曜、休日 ● 休館

※休業期間に移行する数日間(不定期)は、9:00～19:00となります。  
※詳細は開館カレンダーをご覧ください。

【休館日】 休業期間の土曜日・日曜日・国民の祝日、夏期一斉休業期間(8月13日～15日)  
年末年始(12月28日～1月4日)

※その他作業のため臨時に休館する場合があります。  
※最新の情報は、掲示やホームページでお知らせします。



大矢島根県立図書館長からは「図書館連携の核として期待」とエールを。



「器はできたので、これをどう使いこなすかはアイデア次第」と激励する田籠館長。



「図書館を舞台に、学生と市民の交流をサポートしていきたい」と小林学長。

再出発にふさわしく、陽春の清新な息吹の中、行われた記念式典。小林祥泰学長、田籠博図書館長の挨拶、来賓の大矢敬子・島根県立図書館長のご祝辞の後、学生代表の富室崇志さんも加わり厳かにテープカット。その後、学長はじめ来賓の方々に、新図書館全体を見

## リニューアルオープン記念式典を 4月4日に華々しく挙る

学され、一同、大きく様変わりするとともに、随所に施された工夫に驚かされていました。



明るい閲覧室、充実した地域資料室など、各所の質の高さを実感。



新生・附属図書館本館の第一歩となるテープカット。



# 現代の図書館に求められる 重層的な機能を網羅しました。



島根大学附属図書館長 田籠 博 (たごもり ひろし)

昨年7月から始まった附属図書館本館のリニューアル工事は8カ月ぶりに足を踏み入れると、従来の「図書館像」を大きく変えるほど大胆な手直し。その狙いや見どころなどを伺いました。

今回のリニューアルの大きな柱は、二つあります。一つは耐震補強や慢性的に不足していた資料の収容量確保といった、建物のハード面の改修。そしてもう一つは、情報化時代の中にあつて、図書館の役割の再構築というソフト面の見直しです。

時代の変化とともに図書館に求められる機能も変わり、多様な希望に応える必要性が高まってきました。そこで、「研究支援」の点では、電子ジャーナルや電子ブック、データベース等の整備に力を入れました。また

「学習支援」の点では、教育カリキュラムや学習スタイルの変化への対応として、グループ学習用のオープンスペースを整備。従来の、数多の書籍・資料を収蔵するところというイメージから大きく脱皮し、多様な使い方で使えるマルチな施設になったと自負しています。

さらに地域に開かれた図書館として、一般の方々の書籍の閲覧や貸し出し、あるいはスペースの利用等も可能です。「知の拠点」として、大いに活用していただければと思います。

## chapter 1

# 全体を大きく3つにゾーニング 利用しやすさと快適性をアップ

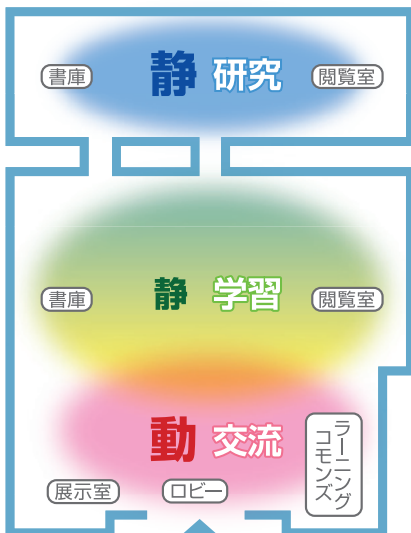
まず注目したいのが、入口から奥へ進むほどに静寂さを増すよう、大きく3つに区分けされたゾーン計画。エントランス付近の「交流ゾーン」は、グループでの学習や交流のための動的で活気ある空間。次に、開架書架と書庫とを一体的に利用可能なとした「学習ゾーン」は、パソコンの持ち込みも可能としています。奥に位置する「研究ゾーン」は、個室スペースなど、一人での学習・研究に適した環境に。各ゾーンの特性に応じたスペース機能が配置されています。



キャンパスプラザを見渡せる2階の「ラウンジ」では、ソファに座りリラックス。



吹き抜けて広がり感のあるエントランスホールには、新聞等の閲覧スペースも設けてあります。



# アクティブ・ラーニングにも対応 学習の多様化をふまえたスペースを

教育プログラムの変化に伴い必要となってきた、アクティブ・ラーニング(協調学習・協同学習)に適したスペース。そこで、図書館のリースを活用し、グループでディスカッションしながら学習できる場として、「ラーニングコモンズ」と「グループ学習室」を設置。「ラーニングコモンズ」は、人数に合わせて机



広々とした1階の「ラーニングコモンズ」は、グループで学習するアクティブ・ラーニング向けスペースとして新設。活発な議論も歓迎です。(2階にも設置)

の配置を自由に変えて調整できるので、授業やゼミでの利用も可能です。ともに、壁面いっぱいホワイトボードや電子黒板、プロジェクターなどのプレゼンテーション設備も充実。”図書館は静かに読書し思索に耽る場“というイメージを覆すようなスペースです。さらには「AVルーム」や41台ものパソコンを揃えた「PCルーム」も設置。情報検索やレポート・論文作成の強い味方になってくれます。



今や情報検索に欠かせないパソコンを41台も備えた「PCルーム」は、常に多くの学生が利用する人気のスペースです。

# きめ細やかにサポート 学生の図書館コンシェルジュ

ピアサポート(同年代の学生による支援)により、学生の図書館利用の活性化を図るため、4年前に始まった図書館コンシェルジュ。現在、15名が授業の空きコマ等を使って活動中です。学生ならではの目線から、図書館サービスの改善を企画・実施したり、広報誌『Lime(ライム)』の発行や、書籍持ち帰りのバッグを手作りしたりと、幅広くきめ細かなサポートをしてくれる頼れるスタッフです。



探している書籍がどこにあるかなど、利用者の困りごとにアドバイスする図書館コンシェルジュの乗富一輝さん(生物資源科学部3年生/写真右)。

迷っているようなら  
積極的に声がけてます



総合理工学部 4年生  
富室 崇志さん

図書館コンシェルジュになって良かったのは、他の学生の返却圖書の整理等をする際、自分一人ならきつと見なかつた本や分野に興味の幅が広がること。今後は、SNS等でもっと図書館の面白さを発信できればと思います。

地域の方々にも  
もっと利用してほしい



法文学部 3年生  
西 秀美さん

図書館の落ち着いた雰囲気が好きでコンシェルジュに。困っている利用者に接することで、相手の立場でものを考えられるようになった気がします。せっかくの施設ですから、一般の利用者も増やせるようPRしていきたいですね。



chapter 4

# 資料へのアクセスを向上 教育・研究の深化をサポート

新しくなった附属図書館本館の中にあって、最も従来の図書館らしいのが、開架図書が並ぶ「閲覧室」。閲覧室と書庫の資料は、各フロアで同じ分野のものを配置し、一体的に運用できるように。資料へのアクセス性を高め、学習・研究の効率を向上させています。

また「学習ゾーン」の閲覧机には電源コンセント、無線LAN環境を整備。閲覧席もテーブルタイプと窓に面したカウンタータイプがあり、好みに合わせて利用できます。



大きな窓で明るく開放的な閲覧室は、つい長居してしまいそう。

chapter 5

# 地域に開かれた機能も充実 市民と学生の「知」の交流に期待

図書館の最深部にあたる「研究ゾーン」には研究個室を設置。さらには、収納可能冊数約7万冊の電動集密書架も備え、収蔵力を大幅にアップしています。



「研究ゾーン」の研究個室では、一人静かに、研究・思索に没頭できます。

附属図書館本館は、地域に開かれた「知の拠点」として、収蔵図書の閲覧や貸し出しはもちろん、さまざまな形で地域の方々にご利用いただけるスペースを設けています。

その一つが、島根県に関する資料をコレクションした「地域資料室」。希少な資料も多数揃えています。また図書館が持つ学術資料を、企画展示により広く地域市民に公開する「展示室」「多目的室」も設置。「多目的室」はプロジェクターを備えたフレキシブルなスペースとして、地域の方々を対象にした講演会やセミナーの会場としても使用します。



1階の入口横の「展示室」は、ギャラリーとして気軽に見学可能。



島根県内の郷土資料や遺跡資料、小泉八雲関連の資料も多数揃う「地域資料室」。

## 環境への配慮も多彩な エコライブラリー

今回のリニューアルでは、耐震性等の安全性に加え、環境にも充分配慮されています。ロビー・ホールの天井には空気循環装置を採用し、強制対流で温度ムラをなくして空調効率をアップ。その他、複層ガラスやLED照明、環境配慮型照明の採用等により、全体で25%減の省エネ化を実現しました。（年間83tのCO<sub>2</sub>削減）



▲積層書庫の結露対策として外断熱を採用。

▶断熱性・遮音性に優れる複層ガラス。



▶エントランスのロビー・ホールや廊下、トイレ等にLED照明を採用。



# 自分らしさを受け止め、活かし 他者への信頼を育む 教育の在り方を模索

特別支援教育の分野で、長く学校現場での教育実践や教育委員会での教育行政に携わった経験に基づく、「心」を育てる教育の在り方等について伺いました。

教育学部 学校教育課程  
心理・発達臨床講座 教授

はら ひろじ  
原 広治



教育の現場で感じたことは、<sup>しょうがい</sup>障害のある子に限らず、多くの子どもたちが「自分に対する信頼(自信)」を持っていないということ。社会の変化に伴うこの事象を、学校だけでなく保護者や地域全体でクリアする仕組みを作ればと思っています。



以下の課題や改善点を洗い出していく。

## 子どもの内面を育てるには 子どもへの眼差しの複眼化が必要

「子どもの内面(心)を育てる指導・支援の在り方とその実際」が研究テーマ。「小学校での教員経験と、教育委員会での行政経験の中で、子どもたちとふれあい、また保育・教育現場の先生方や親御さんから相談を受ける機会も数多くありましたが、障害のある子に限らず、全般的に子どもたちの自己評価の低さが気になりました」(原)。

それは、子どもたちが周囲の大人から「認められた」と実感できることが減ってきているからだと言及。「現代の日本社会は多様化と言われながらも、子どもの教育になると、その評価の仕方が単純になりがち。つい大人目線で、短絡的に「できる・できない」という評価をし、知らず知ら

ずのうちに、子どもたちに「できないことは、いけないことだ」と思わせてしまっているのではないだろうか？」と分析する。

「自己信頼(自信)は、一方で他者信頼や思いやりにつながりません。だからこそ、自分らしさの受け止めを持たせられる保育・教育は非常に重要と考えています」。そのためには、多面的に子どもを評価していく大人の眼差しの変化が必要になってくる。「さらに全体の底流として、わが子と共に生きることを喜び、かつ自分の人生を生きることを楽しむ子育てにつながる保護者支援も同時的に行いたいですね」(原)。子と親双方への関わりと、地域でのバックアップの必要性も示唆した。

## 学生への授業も、実際の支援活動も 地域のネットワークを活かして

現在でも、保育所・幼稚園や学校での園内・校内研修の講師など、さまざまな形で地域の教育に関わっている。その幅広いネットワークを活かし、授業でも現職の教育関係者を招いたり、

学校など実際の教育現場に出かけたりすることも多い。「教育には、心動かされるものが必要です。よりリアルな保育・教育臨床をできる限り授業に取り入れることで、学生が心揺さ





豊富な経験談と実例が納得度を高める、保護者との距離感のない講演会。



昨年開催された「発達障がい支援フォーラム2012」では、コーディネーターを務めた。



保育や授業公開研修では、子どもたちとのふれあいの中から、保育・教育の在り方につ

注目キーワード

医療・福祉・教育などの専門家が連携して  
支援する「ネットワーク」言の葉・しまね

「ネットワーク「言の葉・しまね」は、言語や摂食・嚥下<sup>えんげ</sup>障害のある子ども及びその親に対する支援グループ。例えば口唇口蓋裂<sup>こうしんこうがいれつ</sup>のある子どもには、医療・福祉・教育など各分野のケアが必要であることから、島根というこの地での人的社会資源を活用し、リハビリテーション科の医師、言語聴覚士や学校に設置されている通級指導教室の担当者などが連携し、支援をより連続的・重層的に行っている。

「まだスタートしたばかりですが、地方ならではの豊かさを  
実感できる居場所づくりを行えたら」(原)と、グループ代表  
としての抱負を語った。

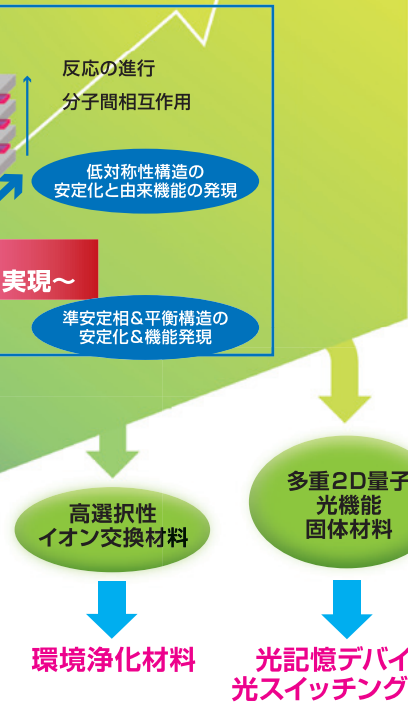
ぶられ、さらなる学びを深めてほしいのです」(原)。  
また、地域のネットワークの活用は、専門の障害のある子どもの教育面でも活かされている。「大都市では、どのような障害にも早期から就労まで対応できる療育センター等を設置している。しかし地方では、散在する医療・福祉・教育機関をつなぎ、トータルとして一人の子ども、あるいはその家族を支援するシステムが必要で、その実践研究を進めていきたい」と語る。その試みは、特に言語系の障害のある子どもたちと、その親を対象とした「ネットワーク「言の葉・しまね」という、地域の受け皿づくりにも結実している。



子育てについて、保護者や担任と一緒に考える相談会。  
幅広いネットワークを活用し、最適な支援体制を探る。

实用材料・デバイスへ

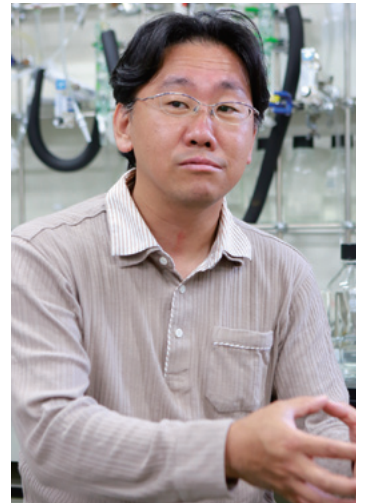
系の光科学分野”の発展



# 応用範囲の広いイオン交換性層状無機化合物の可能性に挑む

1mmの100万分の1という極薄の層(シート)に分子等を挟むことで、思いもよらない機能や現象が生じるという層状無機化合物について伺いました。

総合理工学研究科  
物理・材料科学領域 准教授  
ささい りょう  
**笹井 亮**



日本が直面している資源枯渇・環境保全・エネルギー確保という、科学者がその対処の一翼を担うことのできる課題に対して、効果的・効率的に解決に導くことのできる革新的な材料や技術の創出をめざして研究を進めています。

幅広く活用できる層状無機化合物という  
容れものを“を利用し、有用な機能・現象を創出

「層状無機化合物」は、金属と酸素からなる層状、つまりシート状の化合物のこと。「薄さ1mm(ナノメートル)というシートが層状に重なり、一枚一枚をはがすこともできるし、さまざまな分子を挟むこともできるのが特徴です。さらにシート間に挟まれた分子が、挟む前とは異なる特性を示すことも知られています」(笹井)。そこで生じる、吸着したり光つたりという機能や現象を、実用化に結びつけることが研究テーマである。

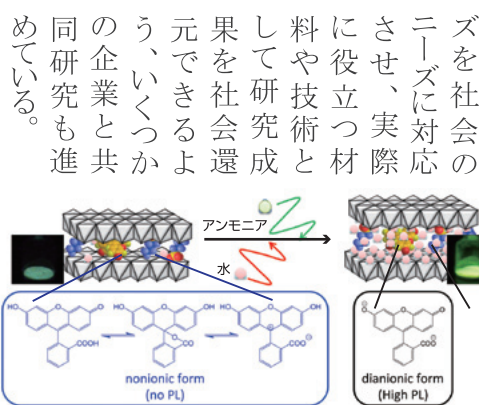
「具体的には、水処理、発光変化、光エネルギー変換の3つの方向で研究中。水処理では、富栄養化の原因となる硝酸イオンを除去することでアオコの発生を抑制し、宍道湖や中海の浄化の手助けができれば。発光系では化学物質の簡易センサーの構築を、また光エネルギー系では、エ

ネルギー確保用の要素材料の開発を進めたい」(笹井)。

さらに層状無機化合物とは異なるが、固体廃材からの非加熱式レアメタル元素回収技術の開発と資源回収システムの構築も研究中。「簡単・安心・安全・低コストで希土類磁石(ネオジウム磁石)からレアアースを回収できる技術の確立に注力しています」。

こうしたシートを社会のニーズに対応させ、実際に役立つ材料や技術として研究成果を社会還元できるよう、いくつかの企業と共同研究も進めている。

「層状無機化合物」は、金属と酸素からなる層状、つまりシート状の化合物のこと。「薄さ1mm(ナノメートル)というシートが層状に重なり、一枚一枚をはがすこともできるし、さまざまな分子を挟むこともできるのが特徴です。さらにシート間に挟まれた分子が、挟む前とは異なる特性を示すことも知られています」(笹井)。



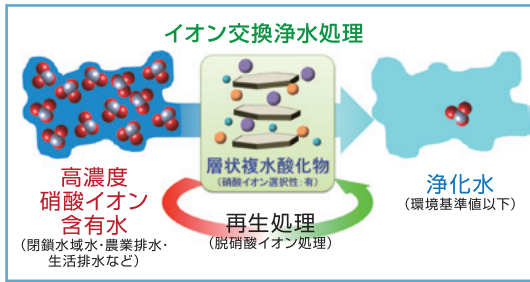
検知材への応用をめざす、層状無機/有機化合物がアンモニアに反応して発光する現象の概念図。

## 基礎からの手順の確実な実行が ものの理解を深め、次なる革新を生む

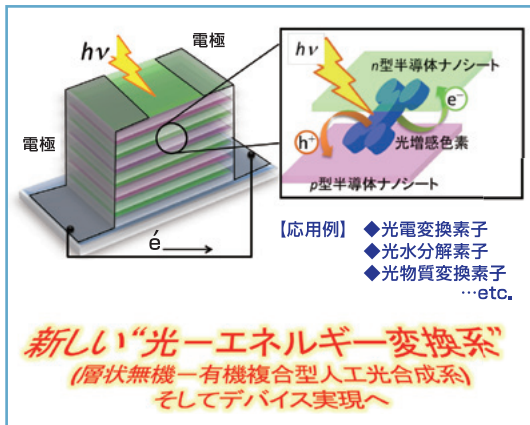
実用化という明確な出口を念頭に置きつつも、日頃の研究は地道なもの。「私の研究室では、自らもの“を創り、創った”ものを自らの

手で分析することで、もの“の正体を見極め、これらの情報をもとに”ものづくり“にフィードバックするという、基礎から順を追っ

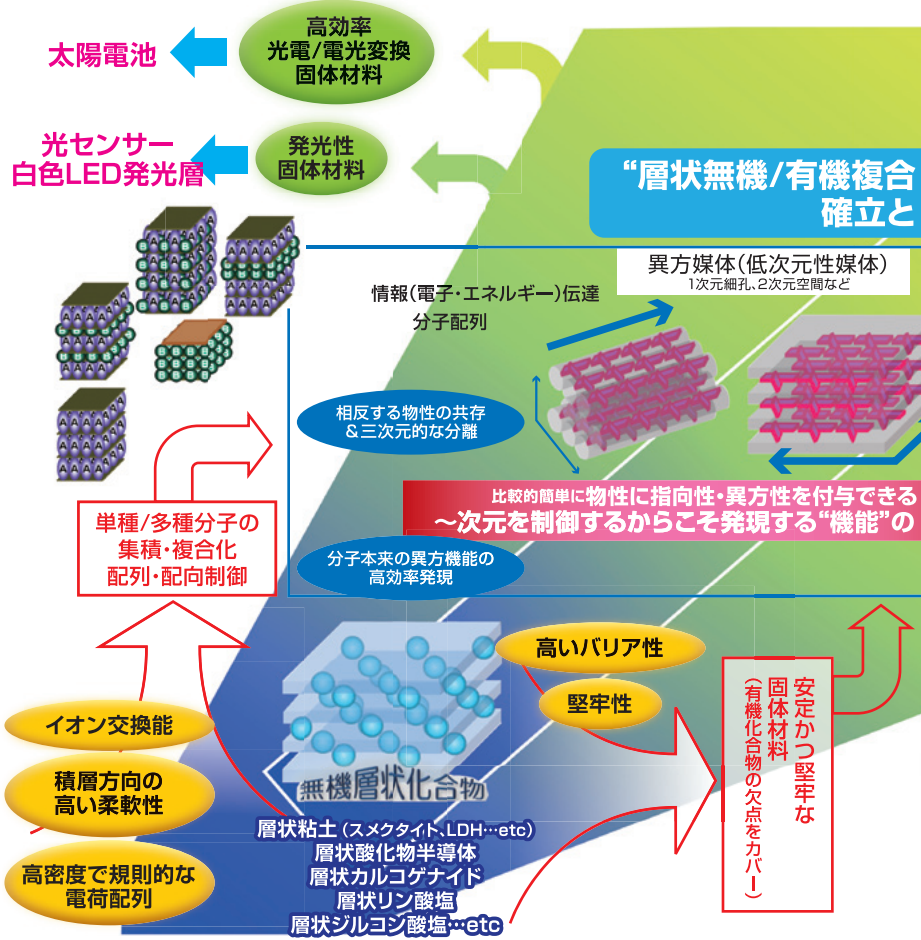




層状複水酸化物により、アオコ発生の原因ともなる水中の硝酸イオンを除去する仕組みの概念図。



新スタイルの太陽光発電として期待される、光エネルギーを高効率で電気に変換する光増感色素を含む層状化合物の概念図。



笹井准教授による「イオン交換性層状無機化合物研究」の全体イメージ図。

注目キーワード

永久磁石のうちで最も強力とされている「ネオジム磁石」。レアアースのネオジウムを原料とし、ハードディスクドライブや携帯電話、ハイブリッドカー等に使用されている。

このネオジウムのリサイクルに関して、日本セラミックス協会の今年のトップクス発表として、「湿式ボールミル処理によるネオジム磁石からのNd回収における処理溶液の影響」が採択。この内容は業界紙に「ネオジム回収に新手法 セラ材料を利用 室温で選択的に析出」として掲載された。笹井准教授の研究は産業界から注目を集め、今後の展開に期待が寄せられている。

産業界からも注目を集める  
レアアースのリサイクル技術の開発

て積み上げていくことを重視して「自分たちが扱っている」ものを深く知ることが、新たな革新を生む」がポリシーである。こうした姿勢が、新たな発見に結びついた好事例が発光材料だとか。「日々実験を行っていると、同じことが再現できないことが時折あります。ほとんど場合は「ものを作り直すとか、測定がうまくいっていないという理由で軽視するのですが、これが天気と連動していることに気付いた学生がいました。確かめてみると、この材料の発光特性が湿度の影響、すなわち水分子が材料に取り込まれることによる変化であることがわかったのです」。自身のテーマの目標を

基礎から順を追って積み上げていくことで、力のある人材を育成。



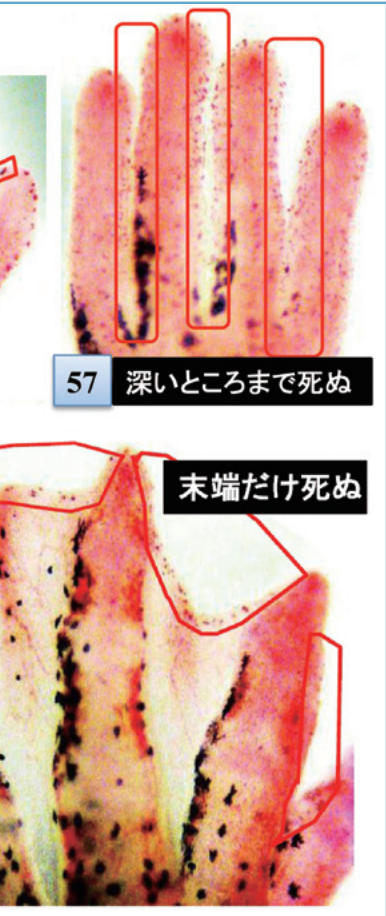
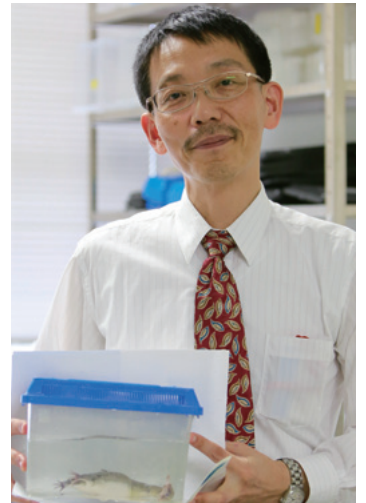
理解し、そのために自らどうすればよいかを考え、目標達成に向かつて着実に歩むことのできる人材がしっかりと育成されている。

# 定説を35年ぶりに覆す! カエルで、「発生」の 謎を解き明かしたい

昨年発表された、カエル類での「指間細胞死」。カエルとヒトとの共通性や、四肢再生における今後の可能性などについて伺いました。

生物資源科学部 生物科学科 准教授  
にしかわ あきお  
**西川 彰男**

カエルとヒトの四肢発生の仕組みが共通だという今回の発見は、もしカエルで完全な四肢再生を実現できれば、ヒトでも四肢再生が可能になることを意味しており、カエルを使ったこの研究の意義は極めて大きくなったと思います。



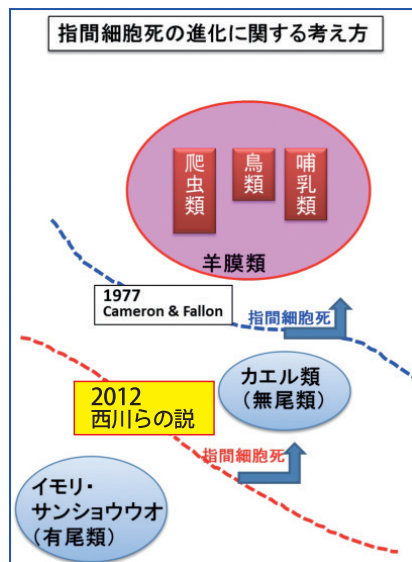
段階を示す)

## 従来の定説を覆す新発見 カエルとヒトの四肢発生機構の共通点

「肢芽の指間細胞死」は、半世紀前にアメリカの学者がニワトリ胚を用いて初めて発見。発生生物学上、極めて重要な現象として知られてきた。その15年後、両生類には指間細胞死が起きないとの論文が発表され、以来35年もの長い間定説になっていたもの。「しかし、我々の研究の結果、指間細胞死は起きていないのではなく、ゆっくりと起きており、遅いためにほとんど見えない印象を与えていたことがわかったのです」(西川)。

爬虫類、哺乳類を合わせた仲間)と近い位置にあり、共通の発生機構を用いていることを意味しています。イモリの手足が素晴らしい再生力を示すのに対して、カエルやヒトでは程度の弱い部分的な再生しかできません。カエルとヒトの四肢発生の共通点の発見は、ヒトの腕や足の再生につながるかもしれない、画期的な転換点と言える。

指間細胞死は、両生類の中でもカエルで起きているが、イモリなど有尾両生類では起きていない。「つまり両生類の中でもカエル類は、我々羊膜類(トリ、



## 発生学的なさまざまな発見で 今後の再生医療にも大きく寄与

「指間細胞死」以外の研究については、「カエルがオタマジャクシから変態という大変不安定な時期を乗り越えて、成体の体を作り

替わっていく仕組みを、細胞培養・細胞移植などの技術を用いて調べています。特に筋肉を作る元となる細胞(筋幹細胞)に幼

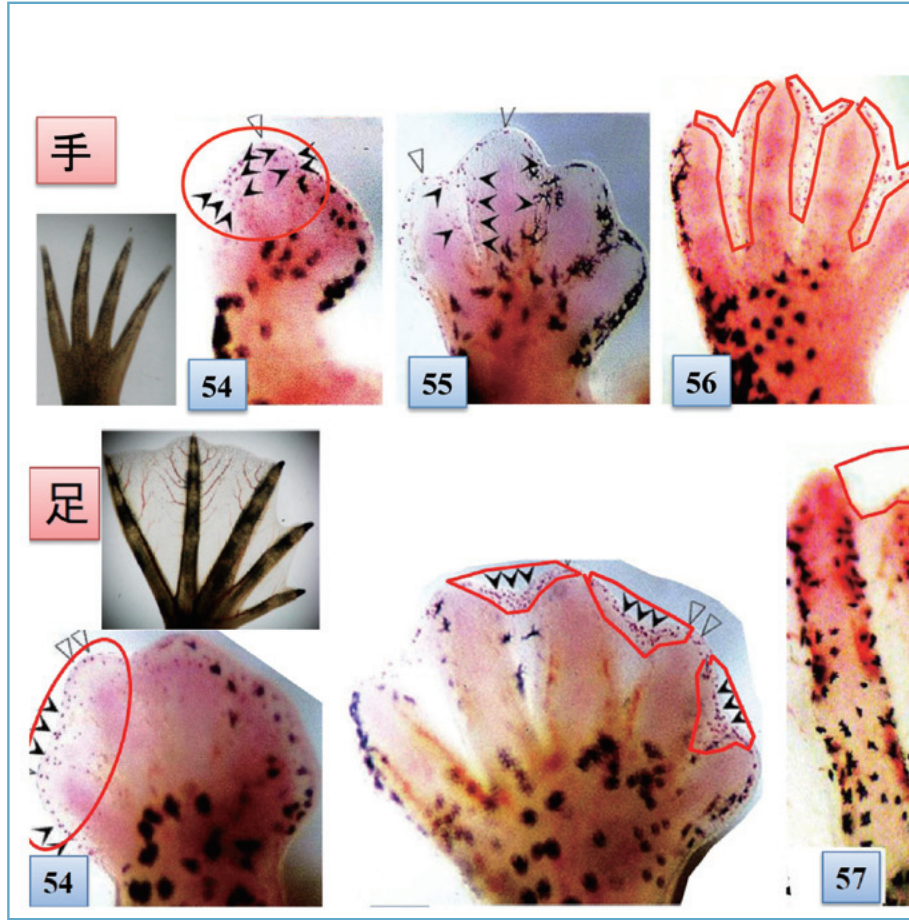




前肢芽または後肢芽の間充細胞をオタマジャクシの後肢芽切断端に移植し、カエルにまで育て、上皮間充細胞相互作用を調べた実験。移植された細胞を覆う表皮から、後肢の特徴である水かきと黒いツメが形成されるのは、後肢芽細胞を移植したとき(下図)だけであることに注目。



研究室のアフリカツメガエル



アフリカツメガエルの足が形成される過程で、指間細胞死(赤枠部分)が進む様子。(数字は発生)

注目キーワード

「身近な生物で、生命現象の面白さ、生物進化の不思議さに触れてほしい」と語る西川准教授。「松江市には豊富な生物が生息しています。春先にはカスミサンショウウオやシュレーゲルアオガエルが産卵。大学近くの田んぼにはアカハライモリやホタルも見られ、近所の熊井の滝には再生力旺盛なことで有名なプラナリアが生息しています。時には、身の回りの生物に目を向けてはいかがでしょうか。」



シュレーゲルアオガエル

【 身近に生命の不思議を感じられる ナチュラルシテイ松江 】

生型と成体型の2種類あり、幼生型細胞は甲状腺ホルモンで細胞死するのに対し、成体型細胞は同じホルモン存在下で増殖・分化が促進。2つの幹細胞間では『myf5』と呼ばれる筋分化の調節に重要な遺伝子の発現の仕方が全く異なることを明らかにしました(西川)。

さらに、肢芽の基部に肢芽が新生するという大変奇妙な現象も発見。「オタマジャクシの若い肢芽を、体の別の場所に移植すると、その肢芽の根元に全く新しい肢芽が左右一対の足を形成する

ように作られます」。この現象で注目したいのは、変態前に移植しないと肢芽新生が起きないという点。「なぜ、この現象が重要なのか。それは、例えばiPS細胞から臓器や器官を作り、患者に移植する際には、臓器・器官の分化の程度や発生的な成熟度が移植成功のカギになることが、私たちの研究から解明されてくるからです」(西川)。

将来の再生医療等にも大きな影響を与えるかもしれないこの研究は、今後の発展に大きな期待が寄せられる。



しまだいい

島大の多彩な動きを  
チョイスしてお伝えします!

# トピックス

掲載記事以外にも、島大には話題がいっぱい！  
ぜひ、ホームページもご覧ください。



島大

検索

## 1,576名を迎え、新たなスタート

### 平成25年度 島根大学入学式を挙

4月5日、平成25年度入学式を松江市「くにびきメッセ」にて挙

辞などが披露されました。また、今年度より保護者限定の松江市内観光ツアーを入学式後に実施。県外から29家族45名が参加され、これから学生たちが暮らす松江の街を知っていたくよい機会となりました。



## 環境問題について日中の専門家が講演

### 第10回日中国際セミナーを開催

5月11日～12日、松江キャンパスで「日中農村における持続可能な社会構築と環境教育」と題して、第10回日中国際セミナーを開催しました。中国からは18の大学及び研究機関等から約30人の研究者が来日。本学をはじめ日本の大学、島根県、NPO法人等合わせて60人以上が参加し、講演のほか環境保全の取り組み、環境教育等の成果について報告・発表もありました。



## 地域社会の発展や人材育成に期待

### 安来市と

### 包括的連携に

### 関する協定を締結

5月27日、安来市役所で本学と安来市との包括的連携に関する協定の締結式を行いました。今回の締結で、安来市とは人材の育成及び研究成果の活用など、これまで以上の組織的な連携を推進。地域発展に貢献するものとして期待されています。



熱中・夢中!  
入学式で聞いた  
島大・新入生の声



憧れていた島大に  
入学できてうれしい!  
松本 千春さん/法文学部



子どもたちから頼られる  
教師をめざします。  
松山 高士さん/教育学部



目標はエンジニア!  
一生懸命勉強します。  
福島 亮佑さん/総合理工学部



第1回

「しまだユーモア連歌大賞」  
作品募集

複数の人で五七五の句と七七の句をつなげ合作する連歌。その復興と発展のため、下房俊一本学名誉教授(下房桃菴)の監修のもと「しまだユーモア連歌大賞」を開催します。発表は10月12日の第7回ホームカミングデー(松江キャンパス)にて。愉快的な作品を多数お寄せください。



- 課題 課題①「すれすれにバス行きちがう城下町」  
課題②「沈む夕陽に叫ぶバカヤロ」
- ※課題①の前句には「七七」、  
課題②の前句には「五七五」の句を付けてください。
- 応募期間 平成25年8月31日(土)まで
- お問い合わせ先  
島根大学「しまだユーモア連歌大賞」係  
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060  
TEL 0852-32-6603 FAX 0852-32-6019  
※詳細については上記までお問い合わせいただくか、  
ホームページをご覧ください。  
<http://www.s-renga.shimane-u.ac.jp/>

「**本学4年生が囲碁大会の島根県代表に**」

第59期中国本因坊戦挑戦者決定大会に出場

5月11日～12日、広島市の中国新聞ビルにて、囲碁の大会である「第59期中国本因坊戦挑戦者決定大会」が行われ、島根県代表として本学総合理工学部4年の武本成史さん(6段)が、各県代表の実力が伯仲しており、決勝には勝ち進めませんでした。が「来年も挑戦してみたい」と早くも意欲を燃やしていました。



**荒れた森林を元気にしよう!**  
私たちは森林保全の輪を広げる活動を展開しています。

みんなを  
まもろう!

山陰合同銀行

島根大学オリジナル芋焼酎  
**神在の里** 好評発売中

生物資源科学部神西砂丘農場で生産されたサツマイモ「ベニアズマ」を原材料とした「芋焼酎」

●神在(かみあり)の里(720ml) 2本入りセット...3150円(税込)

島根大学生生活協同組合  
〒690-8504 島根県松江市西川津町1060 Tel.0852-32-6240  
<http://omise.seikyoku.jp/shimane>

印刷テクノロジーで、  
世界を変える。

**TOPPAN**

凸版印刷株式会社 [www.toppan.co.jp](http://www.toppan.co.jp)  
松江営業所 〒690-0887 島根県松江市殿町383 山陰中央ビル7F

留学生・留学体験者大集合!  
**海を越えた島大生**

現地学生と語学の教え合い。  
今でも交流が続いています!

六井 彩さん(ドイツ「トリア大学」へ半年間留学/法文学部3年)

大学に入ったら留学したい、語学を活かした仕事がしたい、という夢を叶えるため、留学制度を利用してドイツへ。現地では、学生に日本語を教えたり、逆にドイツ語を教えられたり。思った以上にリスニングが大変でしたね。今でもドイツで出会った学生と交流を続けています。

山陰の自然や文化を体感。  
将来は日本で働きたい!

左:ユリア・ハレンスレーベンさん、右:エレナ・アダシェフスキさん  
(共にドイツ「トリア大学」からの留学生)

ドイツでは2年間、日本語学を専攻。もっと日本語が上手になりたいと思い、留学を決意しました。当初はうまく話せませんでした。今では日常会話ができるまでに。休日には山陰各地へ出かけ、日本の文化や自然を体感。将来は日本で働くことも視野に入れ、日本に関わる仕事に就きたいですね。

松江キャンパス

卓球部



共に高め合い  
自主練習で課題克服  
最大限の努力で勝利をつかめ

昨年は中国五大学卓球選手権で女子団体と男子シングルスで3位。男子は全日本学生卓球選手権大会への出場をシングルス、ダブルス共に決めるなど活躍をみせました。

練習は週4回ですが、多くの部員が練習時間外や練習日以外にも自主練習を行い、個々の課題克服に懸命です。

「今年は自主練習への参加者が多く、期待できます」と部長の森山敬介さん(教育学部3年生)。

部内のムードも良好で、先輩後輩関係なくアドバイスを合せて日々切磋琢磨。毎週1回の部内戦で実戦力を高めると共に、競い合いの中でレベルアップを図っています。



真剣な眼差しで練習に打ち込む部員たち

「他大学のレベルも高く、厳しい戦いになるかもしれませんが、全員一丸となって1勝を勝ち取っていきたくです」と森山さん。めざすは、男子は全日本大学総合卓球選手権大会出場、女子は中国学生リーグ1部昇格です。

出雲キャンパス

医学部 キンダーフロイント



闘病中の子どもたちと  
一緒に遊び、ふれあう  
ボランティアサークル

「遊び盛りの子どもたちの、苦しい闘病生活に楽しさを」という思いから、大学の附属病院小児科病棟に入院の子どもたちと遊んだり、交流するボランティアサークル。

月2回、メンバーたちは病棟を訪問して子どもたちに寄り添うようにして遊びます。「遊びは押し付けるものではないので、やりたいことを決めるのは子どもたち。私たちは一人ひとりの気持ちをくみながら、一緒に何かをすることが大切だと考えています」と代表の柳樂絵理さん(看護学科3年生)。

昨年のクリスマスにはサンタクロースに扮して病棟を訪問。毎年の大学祭では手作りのおけ屋敷に病



子ども一人ひとりを遊びの輪の中心にして、一緒に遊ぶメンバーたち。

棟の子どもたちを招待しています。お化け屋敷の準備にはサークル外の学生も協力しています。このケースを参考に「今後はサークルの枠を超え、さまざまな学生と子どもたちの交流の機会をつくりたい」と新たな展開も模索しています。





島根大学は、島根スサノオマジックを応援しています！

# 神話第参章を終えて

2012年10月に始まった神話第参章も、5月12日敵地・福岡でのプレイオフ2ndラウンドでの敗退で幕を閉じた。bjリーグ王者を決める舞台・有明コロシアムまでコマを進めることはできなかったが、設立から3年間、年を追うごとにチームも「ブースター」と呼ばれるファンも成長のあとがみられます。今回は数字で過去3年間を振り返ります。

チーム成績	観客数	スポンサー数
<b>2010-2011シーズン</b> レギュラーシーズン 22勝24敗 (西地区9チーム中6位) プレイオフ西地区1stラウンド 0勝2敗で敗退	<b>45,555人</b> (レギュラーシーズン・ 主催試合26試合)	<b>124社</b>
<b>2011-2012シーズン</b> レギュラーシーズン 28勝24敗 (西地区9チーム中6位) プレイオフ西地区1stラウンド 1勝2敗で敗退	<b>47,710人</b> (レギュラーシーズン・ 主催試合26試合)	<b>162社</b>
<b>2012-2013シーズン</b> レギュラーシーズン 33勝19敗 (西地区10チーム中3位) プレイオフ西地区1stラウンド 2勝0敗で通過 プレイオフ西地区2ndラウンド 0勝2敗で敗退	<b>48,368人</b> (レギュラーシーズン・ 主催試合26試合)	<b>174社</b>

今シーズンは、目標の地元でのプレイオフ開催を見事達成しましたが、来シーズンは何と少しでも有明で戦うスサノオマジックが観たい!!  
来シーズンも地元のプロチーム・島根スサノオマジックを  
観戦&ボランティアで後押ししよう!!



島根スサノオマジックの  
最新情報・試合・チケットなど

島根スサノオマジック

検索

お問い合わせ先

島根スサノオマジック事務局 0852-60-1866 (平日10時~18時)

★来シーズンも、島大生のホームゲーム運営サポートボランティアを募集中。詳しくは学生支援センターまで。

## 島根大学支援基金寄附者一覧

(平成25年3月~平成25年5月にご寄附いただいた皆様)  
(五十音順・敬称略)

冠寄附	株式会社日新	寄附金名称: 日新グループ アジア留学生奨学金 寄附目的: アジアからの留学生奨学金	法人等からのご寄附	もとじま 歯科医院	有限会社村田商店		
個人からのご寄附	秋山 光浩	浅田 祐良	足立 博之	石田 博之	石橋 利正	石脇 誠也	伊原 章
	岩佐 省三	植松 修	漆谷 トシエ	大津 輝美	奥村 裕二	加藤 英之	川口 正昭
	岸 賢治	工藤 瑞剣	齊藤 知和	七座 武史	島田 定和	高尾 秀一	高田 修一
	多々納 俊治	仲田 善則	早川 正人	平林 正哉	廣田 浩康	水越 晴代	水野 清平
	宮本 裕二	森 誠司	山口 秀彦	四元 修	渡辺 敬治	渡部 基信	水野 政重

島根大学では学生に対する修学支援及び社会貢献事業を充実させるため、「島根大学支援基金」を募集しています。

寄附書はホームページにも掲載しておりますが、郵送もいたしますので、お問い合わせください。

TEL:0852-32-6603(総務課) ホームページ [http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/fund/fund\\_recruit/](http://www.shimane-u.ac.jp/introduction/fund/fund_recruit/)

※ご寄附をいただいた皆さまの中で、「HP等への掲載を希望しない」とされた方は、掲載していません。

投稿の  
お願い

『広報しまだい』は、島根大学と地域の方々との相互理解を大きな目的としております。島根大学から地域に情報を発信してほしいこと、地域の方々からの島根大学に関する話題、島根大学に対する要望、その他ご意見、ご質問などをお気軽にお寄せください。ご投稿お待ちしております。

〒690-8504 松江市西川津町1060 島根大学 広報室  
TEL: 0852-32-6603 FAX: 0852-32-6019  
E-mail: gad-koho@office.shimane-u.ac.jp  
ホームページ: <http://www.shimane-u.ac.jp>

投稿先

## PRESENT

ご意見をいただいた皆さまの中から抽選で10名様に、島大農場で収穫・加工された「いちごジャム」をプレゼントします。

※当選者のお知らせは発送をもって代えさせていただきます。  
※応募締切/平成25年9月13日必着



## 編集後記

入学直後はどこか緊張が見られた新入生も、夏も近づき大学生活に慣れ、思い思いの活動を楽しんでいます。是非、限られた時間の中で興味のあることを見つけ、積極的に学び、遊んでほしいと思います。

さて、今号ではベンチャー企業に挑戦する学生を特集しました。私も取材に同行しましたが、彼らは起業や田植え、国際交流を通して、大学の講義だけでは学ぶことのできない何かを得ていると感じました。この体験が将来彼らの研究分野や物事の考え方にどのように活かされていくのか楽しみに、そんな現場に立ち会うことができたことをうれしく思いました。

今後も学生たちの活躍を地域の皆さまへどんどん発信していきますので、引き続きご覧いただければ幸いです。次号の『広報しまだい18号』は10月発行予定です。どうぞお楽しみに。



出雲  
キャンパス

8月4日⑩

医学部

●医学科 ●看護学科

10月20日⑩

●医学科 ●看護学科

しまだいの学びを  
体験しちゃおう!

松江  
キャンパス

8月8日④

法文学部

●法経学科 ●社会文化学科 ●言語文化学科

総合理工学部

●物質科学科 ●地球資源環境学科  
●数理・情報システム学科 ●機械・電気電子工学科  
●建築・生産設計工学科

8月9日⑤

教育学部

●学校教育課程

生物資源科学部

●生物科学科 ●生命工学科  
●農林生産学科  
●地域環境科学科

Let's feel campus life!



# OPEN 島根大学 CAMPUS 2013

対象 ●高校生、高等学校教員、生徒の保護者

内容 ●学部・学科説明、先輩からのアドバイス、模擬授業、学内施設紹介、個別相談など

※駐車場が少ないので自家用車でのご来場はご遠慮願います。

松江キャンパスにて両日開催!

保護者対象企画

●大学進学マネープラン講演、奨学金・学生寮の説明会ほか

要事前予約 ●詳しくは島根大学ホームページをご覧ください。

お問い合わせ先

【松江キャンパス】島根大学教育・学生支援機構 入学センター 〒690-8504 松江市西川津町1060 TEL0852-32-6625

【出雲キャンパス】島根大学医学部学務課入試・大学院室 〒693-8501 出雲市塩治町 89-1 TEL0853-20-2087

▶ 島根大学入試情報ホームページ <http://www.shimane-u.ac.jp/nyushi/> ▶ 島根大学携帯サイト <http://daigakuic.jp/shimane-u>

